

「都心から一番近い森のまち」 流山がめざす「人」との つながりで育む教育

地域の
特色ある
活動

千葉県流山市教育委員会

1 はじめに

流山市は、東京から30キロ圏内の千葉北西部に位置し、水と緑の豊かな自然が息づく文化都市です。平成17年に、東京都心と直結する鉄道「つくばエクスプレス線」(TX線)が開業したことで、首都圏へのアクセスが一段と向上しました。TX沿線の「流山おおたかの森」駅周辺は、大型マンションやショッピング施設が立ち並び、休日には多くの人で賑わっています。

また、流山市では、豊かな自然を生かして作られた公園や児童センターなど、自然を身近に感じながら、親子で楽しく活動できる場所が多いところも魅力のひとつです。さらに、歴史的文化財を利活用した街並みの存続など、「都心から一番近い森のまち」として、更なる発展を続けています。

現在、人口は約20万8千人となり、人口増加が続く本市では、6年連続人口増加率が全国の市で1位となりました。それに伴う児童生徒数の増加に対応すべく、令和3年4月に新設小学校、令和4年4月に新設中学校が開校しました。今後も令和6年4月に小学校2校が新たに開校する予定です。

教育においては、『『学力、気力、体力』の流山の教育』を推進するために、地域と一体となった小中一貫した教育やICT教育の推進、部活動支援事業の実施など、児童生徒並びに教職員のより良い教育環境づくりを進めていきます。

2 地域と一体となった小中一貫した教育の推進

流山市では、中学校区で一体となった9年間の連続した教育環境づくりを推進しています。平成27年4月に開校したおおたかの森小・中学校は同一敷地内に小中学校が併設しており、日常的に交流をしています。また、他の中学校区においても、小中隣接型、小中連携型等、中学校区ごとに、それぞれの地域の特性を活かしながら様々な工夫をして、教育活動に取り組んでいます。今後は、地域学校協働本部の活用、コミュニティスクールへの移行(段階的に移行中)を通し、学校と地域がより密接に連携を図り、地域の教育力を活用した学校教育を推進していきます。

3 ICT教育の推進に向けて ～先進的統合型プログラミング教育～

今日では、生活のあらゆる場面で、ICT機器が活用されるようになりました。子どもたちも、幼い頃から様々なICT機器に触れながら成長していく、そんな時代です。情報が氾濫し、新しい情報機器が次々と生み出されている今日において、自ら正しい情報を取捨選択し、適切に活用することや、起こった課題に対して解決策を見出していく力を身に付けることが必要になっています。

本市では、このような自己解決能力の育成を図るために、小中一貫したカリキュラムとしてプログラミング教育に取り組んでいます。今年9月から、東京理科大学、(株)内田洋

行、(株)ソニーインタラクティブエンタテインメントとの連携、協力のもと、市内全小中学校でロボット教材「toio™」(トイオ)を使った産学官連携のプログラミング教育が始まりました。



本市で採択した「toio™」は、小さいロボットに命令を与え、ロボットの動作が自分の意図したものになっているかを確認することで、与えた命令(プログラミング)が正しいものになっていたのかを検証していく教材です。小学校の低学年から、親しみやすく愛らしい動きをするロボットの活用をとおして、楽しみながらプログラミングの考え方を学ぶことができます。また、学年や児童生徒の理解度に合わせて、段階的に高度な課題に



挑戦することができる学習プログラムを取り入れることも可能です。

今後は、プログラミング教育をとおして、自ら課題を発見し、解決策を見つけ出すことにより、論理的な思考力を身に付けることを目指していきます。そのために、プログラミング教育の多様な学び方の習得に努めていきます。

そのほかにも、今年度から、児童生徒の心の様子を可視化することができるシステム「スクールライフノート」を導入しました。児童生徒は、毎日自分の心の様子を天気マークで示すことができ、教職員はその記録を把握することができます。これにより、不登校の未然防止や、いじめの早期発見に繋げることが可能となります。児童生徒の様子を詳しく把握し、一人ひとりにきめ細かく対応・支援していくことに尽力していきます。

4 部活動支援事業による教育の良質化

本市では、令和元年度より部活動の支援を、民間事業者に業務委託しています。今年

度は、市内中学校6校、合計24部活動に外部指導員を配置し、技術的な指導を行っています。また、それぞれの競技の指導に加え、部活動の枠を超えて、希望する生徒を対象に基礎体力を向上させるためのトレーニングも実施しています。

このことにより、生徒は各競技のより専門的な指導を受けることができるようになり、また教職員は、これまで部活動指導に充てていた時間を、学習指導や生徒理解のために有効活用することができるようになりました。今後は、国、県の方針に則り、流山市の実態を把握しながら部活動の地域移行を進めていきます。

5 おわりに

学校現場は、コロナウイルス感染防止対策を講じながら、これまでとは異なる学校生活を強いられてきました。しかし、社会の変化や要請に合わせて実践してきた教育活動も、今後はそれらを検証し、子どもたちが次のステップを踏めるよう、さらに教育環境を整えていく必要があります。これからの学校教育が目指すのは、この「新しい学校生活様式」のもと、子どもたちが変化の激しい時代を生き抜くための資質・能力を育むことができる環境を創っていくことです。そのためには、失敗を恐れず、様々なことに果敢にチャレンジしていくことを、児童生徒だけでなく、教職員も大切にしていかなければなりません。

学校は、学校に関わるすべての「人」のつながり・支え合いによって、教育活動が成り立っています。今後も、すべての子どもが元気に学校生活を送れるよう、教育委員会が学校と連携を深めるとともに、保護者の皆様や地域の皆様にご支援、ご協力をいただきながら、市全体で教育活動に取り組んでいきます。



教育長
田中 弘美